

第三章 34) サンタ・ルジア耕地 (ペデルグーリョス駅)

リベイロン・プレート、バタタイス、フランカ、ペデルグーリョ、リファイナ、コンキスタ、ウベラーバ



サンタ・ルジア耕地 ペデルグーリョス駅

*池田清蔵、1926年6月神奈川丸、熊本県宇土市恵塚町出身、同駅バグアス耕地で義務農年終了後、プロミッソン駅ゴンザガ植民地で1ヶ年働き、あとボラ植民地で契約農6ヶ年に従事する。

(「熊本県人発展史」903ページ)

*奥野末松、1927年ラプラタ丸、岡山県川上郡手荘村出身、同駅バグアス耕地で義務農年遂行、リバイア駅で大工1ヶ年、ノロエステ線を経てパラナ州アサイ市に到着く。

(「トレスバラス移住地開拓20周年史」747ページ)

*佐藤弥右衛門、1932年11月リオ・デ・ジャネイロ丸、北海道蛇田郡東倶知安村出身、同駅シャパードン耕地に就労すること2ヶ年後、移転を繰返し後年パラナ州トレスバラス移住地セードロ区に入植する。

(「トレスバラス移住地開拓20周年史」374ページ)

*小林一谷、1933年6月ラプラタ丸、茨城県久慈郡高倉村出身、同駅サンタ・ルジア耕地に3ヶ年就労。渡伯当時の家族は妻キン、長男一郎、長女ツキ、次女ハナ。翌年1934年に次女ハナが死去。パラナ州に農地を購入したが、移転の折諸々の問題で1年見合わせ、モジアナ線の高村耕地で1ヶ年米作に就労後、パラナ州トレスバラス移住地フィゲラ区に入植するが、初年度に一谷氏も逝去する。

(「トレスバラス移住地開拓20周年史」)

*富田正義、妻くに、1933年6月ラプラタ丸、茨城県結城郡水海道上蛇町出身、同駅フランクリン耕地に就労。後年グアルーリョス在住。(つくばね第13号43ページ)

35) コンキスタ耕地 (コンキスタ駅)

リベイロン・プレート、バタタイス、フランカ、リファイナ、コンキスタ、ミナス州



コンキスタ耕地 コンキスタ駅

*後平蔵助、1917年12月若狭丸、鹿児島県始良郡隼人町出身、コンキスタに入耕米作に従事、後口レタ、グアラ、イツヴェラーバと移転、1957年リベイロン・プレートに再移転、クラビーニョス市に農場購入雑作、牧畜を営む。(「ブラジル日系紳士録」727ページ)

*宇都武二(ウノ)、同上、同上、コンキスタ・サン・ジョゼ耕地に入耕就労4年、幾度も転じゴイアノ・ポリスでホテル、ガソリンスタンド経営。(同上882ページ)

*浜崎谷松、1926年9月マニラ丸、広島県広島市仁保町出身、コンキスタ耕地に配耕3農年就労、てんと転じ1937年クリチーバに再移転。(「ブラジル日系紳士録」750ページ)

*佐野武雄、1929年4月ラプラタ丸、静岡県富士郡富士根村出身、同駅ラジार्ド耕地に就労すること1ヶ年後、出聖し「農業とブラジル」社に入社。さらに諸々の仕事に就き、後年パラナ州トレスバラス移住地に入植。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」)

*小野才吉、1931年ブエノスアエレス丸福島県出身、ラジェアード耕地。(コンキスタ駅)

*勝山清司、1933年1月アフリカ丸、静岡県榛原郡出身、コーヒー園就労、後年パラナ州マリंगा在住。(「ブラジル日系紳士録」830ページ)

*リオ・ブランコ耕地(同駅)弓削清次、1931年ブエノスアエレス丸、茨城県出身。(「平野25周年史」)

*山本質、1929年5月ハワイ丸、熊本県八代郡出身、コンキスタに入耕米作従事、後フランカに移転雑作に従事、1955年リベイロン・プレート在住。(「ブラジル日系紳士録」)